

平成29年度第2回 日本一の健康長寿県構想安芸地域推進協議会概要

日 時：平成30年2月15日（木） 18：30～19：30

場 所：安芸総合庁舎 2階大会議室

参加者：委 員（23名）

事務局（10名）

高知県（3名）

傍聴者（3名）

} 別途資料参照

1. 開会

所長挨拶

2. 議題（参照 資料P1～P7）

(1) 安芸圏域における日本一の健康長寿県構想の推進について

ア 「安芸圏域アクションプラン」の平成29年度取組報告及び総括について

【事務局より説明】 在宅医療、脳卒中

【部会長より説明】 糖尿病

【事務局より説明】 在宅医療、脳卒中、糖尿病の総括

イ その他

【委員より説明】 歯科保健対策

★資料P3に関連して

正しい口腔ケアすれば改善されることは本当だが、ケアが正しくできているかが問題で、できていないという言葉は適切ではないが、（ケアが正しく）できていないから、（効果について）変わらないとか、未評価が多い。正しい口腔ケアをすれば必ず改善される。

【協議会副会長より説明】 働き盛りの健康づくり

(2) 各委員からの報告

【安芸郡医師会】

・月に1回講演会を開催

糖尿病について、高齢になると合併症がおこって、糖尿病のコントロールが大事であることから、糖尿病の講演会が多くなっている。

糖尿病に熱心な医師がいて、医師会の講演会以外で研修会も実施されている。

・訪問看護の充実

中芸地区に訪問看護ステーションが発足し、全体で協力し、機能が上がるようにしていく状況で、

医師会としても応援していく。

・看護学校の設立に向けた準備

平成31年の春開校に向けて準備中。看護師として少しでも地元に残ってくれる人を増やしたいことが一つの大きな目的である。医療機関もこれから実習先や講義で協力いただく予定である。

- ・脳卒中関連では、高知大学病院と密接に連携して、ヘリや他の方法であったり、あき総合病院や田野病院で対応できること、大学病院で早く対応したほうがいいのか、非常に連携がうまくできているところと感じている。

【県立あき総合病院】

- ・圏域全体の問題でもあるが、病床が満床となっている。本日も100%を超えているが、今月100%を超えた日が何日もある。

- ・満床の要因は、退院後にいくところがない、在宅に帰るまで時間がかかる、介護施設の空きが少ない、インフルエンザで満床とかである。毎年2月は調整が大変である。冬場は肺炎の方が多く、在院日数が長くなるが、その理由は、誤嚥肺炎を繰り返し、退院の日が決まって熱が出るということが頻発している。口腔ケアについて、医局会でDrから提案があり、言語聴覚士、STに嚥下障害を診てもらっているが、STが二人のため全員を診れない。耳鼻科医も一人である。

誤嚥、誤嚥予備軍の方をできるだけ早く見つけて、訓練して治療するため、診療報酬の問題があるだろうけど、歯科医、または歯科衛生士に病院に入って診ていただきたい。口腔ケアの報告があったので提案だが、限りある病床をうまく利用するために口腔ケアによる肺炎予防、在院日数の短縮に向けて取り組んでいただければと思う。

以前もがん患者について、歯科医師連携でお願いしたことがある。高齢者はがんと肺炎は一緒に、肺炎の方が重症なので、医師会からか県立あき総合病院からか依頼するという形で、日を決めて入っていただけるよう具体的に話をさせていただきたいと思う。

【安芸・室戸歯科医師会】

安芸だけで勝手には言えないと思うが、歯科医師会に諮り、保険の点数の関係も含め検討していかねばいけない。医師会とも話をする必要がある。

【県立あき総合病院】

病床が少ないので、早く（病床を）回すために、肺炎の患者が早く治るよう、誤嚥をしないようにすることがすごい取組なので、ぜひお願いしたい。

【安芸・室戸歯科医師会】

- ・3本柱（虫歯予防対策、歯周病予防対策、高齢者等との歯科保健対策）で取組を進めてきた。虫歯は減ってきているが、これからの問題は、合併症。糖尿病、心臓病は伝えたが、脳疾患にも歯周病が影響していることが明らかになっている。

- ・高齢者の歯科保健対策、歯周病予防を主体にこれから行動したいと考えている。最近、ある一定

の病院は、全身麻酔が必要な手術をする患者さんに歯の掃除をしてもらうよう伝えている。理由は、麻酔をするのに挿管する場合、滅菌した道具を口の中を通して肺や気管に挿管するが、口の中が汚れていると口腔内で感染したものが気管に入り、肺炎をおこすこともあるからである。

(口腔の) 掃除をする期間は一月だが、一月では口腔清掃は少ししかできない。3ヶ月は必要ということを認識していただきたい。

また、最近はマウスピースを作ると言われることもある。挿管時に歯を痛めたり、ぐらぐらした歯周病の歯を誤って、胃や気管に入ることが起こっているようである。

- ・医療に関しても歯というのはすごく関連するということを、歯科医師会として周知するようしていきたいと思っている。

【薬剤師会安芸支部】

- ・学校薬剤師の取組：薬剤師が学校に行き、学校環境衛生に寄与するよう取組を深めている。
- ・高知家健康づくり支援薬局：薬局でお薬相談、健康相談を受けやすい環境を作るために研修を積んだり、窓口を広くして話しやすい環境をつくり、患者さんとのコミュニケーションをはかり、より相談を受けやすい体制づくりに力を入れている。
- ・地域活動として、馬路村の文化祭にお薬相談で参加。さらに魚梁瀬地区、馬路村地区講演依頼がある。北川村とは、関係機関と話し合いの最中である。安芸市と室戸市の健康ふれあい祭りに参加している。
- ・自殺予防に関して、自殺未遂者の多くは向精神薬の過量服薬がデータとしてわかっているため、薬局の窓口で異常を感じ取ったら積極的に声かけをし、どこかに伝えた方がいいという判断であればつなぎ、見守る活動ができるような研修を積んでいる。
- ・研修としては、災害時に薬事コーディネーターとして、災害時の薬の手配、人の配置をスムーズにできるように薬事コーディネーターを中心に実施している。在宅では、多職種連携が大事なので、薬剤師だけでなく地域の在宅に関わる方たちを対象として、共同の勉強会を開いている。
- ・各市町村の地域ケア会議に参加し、高齢の方が住み慣れた自宅で暮らしやすい環境をつくるためのアドバイザーとして活躍している。

【看護協会室戸・安芸地区支部】

- ・大きく3つの取組みを実施。

①災害対策については、地域災害支援育成ナースの育成に取り組んでいる。地域災害支援ナースとは、災害発生時に自分の職場に行けない場合、近くの避難所や医療機関に赴いて、交通が再開するまでそこで医療活動を行う訓練の研修を受け、看護協会がその身柄を保証するもの。現在、県下では427名が登録、東部地域は約40名の方が登録をしている。毎年、継続研修あるいは新たな災害支援の育成研修を実施している。今年も、芸西病院で継続研修を実施。具体的には、災害時、施設で新たな人を受け入れるための部屋割りや準備を実際にシュミレーションしたり、地域の災害の取

組の講演を聴くということで、今回は自衛隊の方に配備や体制について話を聴く機会があった。毎年、安芸市との合同訓練に参加しているが、地域災害支援ナースに登録している人が自主的に参加、今年も十数名の方が参加して活動している。安芸市については、周知もできているが他の市町村の計画があれば、看護協会を通じて参加できるので教えていただきたい。

安芸市では、訓練の前後にトリアージと2次トリアージという研修もあき総合病院のDMATが講師となって、田野病院のDMATとも協力しながら具体的な訓練を行っている。

②安芸市、芸西村、安田町の健康祭り、元気フェスタに看護協会として参加し、ハンドマッサージ、少しでも小さい子供さんに看護師の存在を知ってもらうようにちびっこナース体験ということで、種まきをしている。

③看護職同士の連携強化で、看護職の顔の見える関係をしっかりとつなごうと事例検討会を実施している。今年は、田野病院、あき総合病院で4回実施。看護職が自分たちの役割をしっかりと認識をすることについて強化を行っている。

【介護支援専門員連絡協議会東部ブロック】

- ・インフルエンザ流行していて、本日、在宅で要介護5で気管切開した方が、インフルエンザに罹患したとのことで対応していた。どこから感染したのかと思うが、サービスを提供する側のリスク管理、感染対策も今後必要と痛感した。
- ・平成29年度の取組としては、在宅医療と介護の連携ということで、安芸福祉保健所と協働で入院調整ルールづくりを詰めていっている状況。
- ・医療の現状では、室戸病院の閉鎖、介護サービスの認知症デイと居宅介護支援事業所もなくなっている事態なので、室戸市のサービスの利用者の不足するサービスについてどのようにまかなっていくのか、どのようにケアマネジメントしていくかが課題に上がっており、東部地区の医療の現状ということを12月15日に73名の参加を得て研修会を実施した。
- ・介護支援専門員のスキルアップということで、群馬県前橋市の主任介護支援専門員の山田圭子先生を迎えて、ケアマネジメントの基礎を43名の研修会を行った。
- ・介護報酬の改定でも大きくうたわれているのが、在宅医療、地域の病院、地域の先生方との介護支援専門員の連携がどれだけはかれるかということが、課題となってきているので、重点的に資質向上を目標に取り組んでいきたい。地域全体でケアマネジャーの質があがるような研修を企画していきたいと考えている。

【安芸広域社会福祉協議会】

- ・地域で健康に暮らしていくために、地域福祉を進めていくということで、介護予防を中心とした健康づくりを行っている。各社会福祉協議会では、地域で個別に小地域の集会所等で住民向けに健康づくりの講演、講座を開いている。地域包括支援センター等の協力を得て、理学療法士に来ていただき、転倒予防や健康で暮らしていくための地域づくりで講演を実施している。

- ・サービスの隙間を埋めていくような小さな個別訪問や介護支援専門員と協力しながら個別に対応している。今後も個別の集会所等で研修会を開きながら、健康づくりに努めていく予定である。

【東部ブロック民生委員児童委員連絡協議会】

- ・各ブロック、各市町村で、それぞれの民生委員児童委員が行政とタイアップし、必要に応じて、検討会をし、健康に対する考えを持って取り組んでいる。東部地区全体で取り組むという形ではなく、各市町村でテーブルづくりだけでなく、それぞれ必要に応じたことに取り組んでいる。

【安芸地区食生活改善推進協議会】

- ・赤ちゃん、小さい子供から高齢者までの食生活の改善、食生活の改善によって健康に生活ができるように色々取り組んでいる。
- ・安芸市内の小学校（6校）の5、6年生対象に「朝ごはんを作ろう」ということで、朝食を自分で作れるようにおにぎらずを作って、お味噌汁も昆布と鰹節を使った出汁をとり、薄味のお味噌汁の推進をしている。
- ・高齢者の方々には、低栄養予防ということで、タンパク質等をしっかり取るような食事の講習を実施している。
- ・生活習慣病予防のための減塩スキルアップ事業
安芸市においては、若者世代、高校生を対象に日本食生活協会が出している漫画本のテキストを使用し、またパワーポイントの資料も使い、朝食を抜くと生活習慣病のきっかけになるとか、野菜摂取や減塩の味噌汁の推進等、学習や調理実習で健康啓発を行っている。

【安芸地区健康づくり婦人会連合会】

- ・健康づくりは幸せづくりをモットーとして、県、市町村、その他の関係団体と連携を密にして、健康長寿社会の実現に向けた活動の展開を目標としている。
- ・4月の中芸地区、室戸地区健康づくり啓発パレードを皮切りに各市町村で、受診勧奨や健診会場の手伝い、生活習慣病予防の啓発活動などを展開してきた。また、社会福祉協議会、食生活改善推進協議会、老人クラブ、交通安全母の会など地域の団体と協力し、啓発活動に努めている。

【安芸商工会議所】

- ・全国的に健康経営ということで、昨年あたりから、経済産業省の取組の中で健康経営優良法人制度ができ、現在大規模法人、中小規模法人の約500法人が認定され取り組んでいる。認定基準の必須項目として、健康宣言及び社員の健診受診率100%の達成、健康づくり担当者の設置、40歳以上の従業員の健診データの提供、健康管理に関するコンプライアンスの徹底があり、これらによって受診率が上がる可能性がある。また、インセンティブについては、自治体の表彰制度を作るとか金融機関の低利の融資が受けられるという提携をしているので、会社の生産性向上を目指して企業経営につながる取組となっているが、今のところ大都市のみだが、徐々にこちらの地域にも動きがあるのではと思っている。

3. その他

- ・ 質疑

【安岡委員】

インフルエンザについて、安芸福祉保健所に聞きたいが、本日の夕刊では、安芸管内が高知県下に比べて（罹患率）低い状況であるが、感染に関して注意を払っていたのか、これから増えていくのか簡単に説明をいただきたい。

【事務局（福永所長）】

これは、テクニカルな問題で、インフルエンザに限らないが、観測して報告いただく医療機関が定点をとり、限られていて、管内では大きな病院だけとなっている。現実問題、大きな病院は、受診補正がかかっている、一般診療所はかなり受診していると思われる。見かけ上の数字が出ているだけで、ほぼ県内の流行状況と同じと考えていいと思う。

4. 閉会